

# 「文学・絵画に描かれた名所を訪ねる」

担当教員 日原 傳

## コース概要

日程	2019年9月3日、5日、10日、12日
場所	東京都23区内
参加人数	20名

## コースのねらい

江戸時代の詩人や文人の作品に登場する名所、画家によって描かれた名所、また明治政府が近代国家としての体制を整えるために建てた官庁や大学などの当時における新名所を訪れます。江戸・東京の歴史を学ぶとともに文学・絵画などが名所の成立に果たした役割を考えます。

## 内容

1 日目 北桔橋門から皇居東御苑に入り、江戸城の本丸・二の丸・三の丸の旧跡を訪れました。つぎに皇居前広場・桜田門を経て、日比谷公園を散策。農林水産省食堂で昼食をとりました。午後は法務省旧本館を訪れ、法務史料展示室を見学しました。法務省旧本館は明治政府の官庁集中計画にもとづき明治28年（1895年）に完成した建物です。歌川広重『名所江戸百景』の「霞かせき」の絵をたよりに霞ヶ関の坂道を歩きました。かつてこの坂の南側には福岡藩



写真1 江戸城 富士見櫓

主黒田家の上屋敷が、北側には広島藩主浅野家の上屋敷があったのです。最後に旧文部省ビルを訪れ、創建当時の姿に復元された旧大臣室を見学しました。

2 日目 湯島聖堂仰高門に集合。楷樹・孔子像・入徳門・杏壇門・大成殿を見学しました。徳川幕府の教育施設である湯島聖堂は林羅山が上野忍ヶ岡の邸内に開いた家塾が起源とされ、五代将軍綱吉の時に現在の地に移りました。聖堂裏手にある神田明神・湯島天神を参拝してから、東京大学を訪れました。大学構内にある三四郎池の名称は夏目漱石の小説『三四郎』に由来するもので、正式名は育徳園心字池と言います。かつては加賀藩上屋敷の庭園の池だったのです。その後、森鷗外の小説『雁』に登場する無縁坂を下って不忍池を訪れました。上野公園では西郷隆盛の銅像・清水観音堂・上野東照宮唐門などを見学。最後に寛永寺まで歩いて解散しました。

3 日目 下町の水路を探索の一日です。はじめに芭蕉記念館を見学。つづいて隅田川沿いに歩き、小名木川が隅田川に流れ込む所にある芭蕉庵史跡展望庭園から隅田川および対岸の景色を眺めました。ついで芭蕉稲荷神社を参拝。『江戸名所図会』にはこのあたりに「芭蕉庵旧址」があったと記されています。つづいて清澄庭園を散策。深川江戸資料館では再現された江戸の町並みを体験しました。午後は深川不動尊・富岡八幡を参拝。東京海洋大学を訪れ、明治丸を見学。旧商船大学 OB の方から母校愛あふれる熱のこもった説明を受けました。この船は明治政府が英国に発注した鉄船で、明治7年竣工、翌8年に横浜に回航されました。明治天皇が明治9年に東北・北海道を巡航した際に乗船されたことで知られています。最後は相生橋を渡り、佃島の住吉神社まで歩いて解散しました。



写真2 東京大学 安田講堂



写真3 東京海洋大学 明治丸

4 日目 雷門に集合。仲見世通りを抜け、浅草寺、浅草神社を参拝。吾妻橋を渡り、牛嶋神社・三囲神社を経て長命寺を訪れました。この寺はもと常泉寺という名でしたが、徳川三代将軍家光が鷹狩に出て腹疾を得た時にこの寺の井戸水で薬を服用し、たちどころに癒えたことから「長命」という寺号を賜ったとされています。雪見の名所で、江戸末・明治の漢詩人溝口桂巖は「長命晴雪」という七絶を詠んでいます。ついで江戸の文人が遊んだ向島百花園を訪れ、秋花を賞玩。白髭橋を渡り、「投込寺」の名で知られる浄閑寺を経て、小塚原の刑場跡にある回向院を訪れました。境内には安政の大獄で刑死した吉田松陰・頼三樹三郎らの供養塔があります。最後に千住大橋を渡り、千住宿本陣跡まで歩いて解散しました。

## 学習を終えて

現在の東京で普段何気なく見過ごしている場所も、江戸の面影が実は残っていることを知りました。江戸の都市空間を意識することで、見える世界が変わってくることを実感しました。(1年 羽柴 航)

法務省の旧赤れんが棟は、改修に当たり、建設された時代の素材をできるだけ残す工夫がされていました。時の流れを記憶している古いものは常に人々の心を大きく動かします。見学者が直接に古い歴史と触れ合える機会は文化や伝承の保護を促進する力になると思いました。(3年 周 晏予)